



# CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway  
日本クリニカルパス学会

No.  
21

発行日  
2009年2月20日

in 熊本

## 第1回クリニカルパスエキスパート ミーティングに参加して

2008.9.12～14

岡山大学病院 看護師 こしげ 胡重やす子

9月12日から2泊3日の日程で、熊本県阿蘇の大自然の中、第1回クリニカルパスエキスパートミーティングが開催されました。参加者は25施設、講師を含めて47名で、3日間盛りだくさんの内容を勉強させていただきました。その中からパス改訂のプロセスを学んだ演習についてご報告します。

講師の先生方をオブザーバーに、2グループに分かれて開腹結腸切除術パス改訂の演習を行いました。パス作成の資料として済生会熊本病院のバリエーション分析の結果・CDCガイドラインやEBM、DPCのデータと合併症発生時のコスト比較、他施設のパスとの比較などのデータが提示されました。

まずパスリーダー、ファシリテーター、タイムキーパーなど9つの役割分担を行った後、デモパスの改訂ポイントをあげ、それぞれの職種が経験知をもとに情報提供し、資料などを参考に議論してパス改訂をすすめました。

在院日数は術後14日から8日に短縮。前処置についてはオブザーバーより腸に便があっても手術には問題ないとの助言で『術前絶食や排便処置不要』。食事について外科看護師や栄養士から食種別のカロリーの違いや、食事の硬さ、実際の食事摂取の現状などの情報をもとに『術後1日目から飲水開始・3日目から全粥』と決めました。結腸切除術後は特に食事制限の必要はなく、『食事開始時看護師によるパンフレット



指導を行い、栄養士による指導は不要』『インフォメーションのためのドレーン挿入はしない』『創はフリーで3日目シャワー許可』『レントゲンは術翌日のみ』。採血については意見が分かれていましたが、『採血は術後1・3・7日に施行』など斬新なパスになりました。

済生会熊本病院では日々蓄積したデータを、それぞれの職種が専門性を発揮して分析、可視化するためのシステムと、それを活用しパスの評価・改訂を通してチーム医療の提供と、継続した質改善に取り組むという風土が出来上がっていることに、あらためて感銘しました。

当院でも、パスを作成・普及するという段階からバリエーション分析や、質改善へ目を向けなければいけない段階だと思います。診療科別のパス数や、適用率、医師別のパス使用数の公表など組織変革のためのヒントもいただきました。また、ご提供下さったパス大会のCDも参考に、活発なパス大会

- ▶ 第1回クリニカルパスエキスパートミーティング
- 第9回前橋赤十字病院パス大会見学会
- 第2回済生会宇都宮病院パス大会見学会
- 第9回日本クリニカルパス学会学術集会

(これぞチーム医療といえる)を開催したいと前向きに考えることが出来ました。

パス活動に少々疲れ気味で、もう一度頑張るきっかけを探していたとき、このセミナーの案内を見てすぐに申し込みました。参加者名簿を見てびっくりです。パス学会スターの先生たちの名前がずらり、いまさら後には引けないし...少々気後れしつつ参加しました。

でも、『パスという家族』のような雰囲気になんか不安はすぐに吹き飛んで、「大変でしょう、苦勞はわかります。」という司会者のフォローで、日ごろの苦勞話を次々吐き出してすっきりリラックスしてしまいました。夜は、各地からの差し入れのお酒をいっぱい飲んで、ゆったり温泉に入りパワーアップもできました。

企画していただいたパス学会の皆様、済生会熊本病院の皆様本当にありがとうございました。



in 前橋

## 第9回前橋赤十字病院パス大会見学会に出席して

2008.9.26

大阪警察病院 看護師 山中孝子

前橋赤十字病院の第9回パス大会見学会に参加させて頂きまして有難うございました。

私は大阪警察病院の病棟看護師で現在クリニカルパス委員です。大阪で学術集会在開催された際は、見学や発表をしていました。今年個人会員になりメイリングリスト上で多くの情報交換をなさっていることに驚き、読んでいくうちに引き込まれ、今回のパス大会見学会を知り、当院クリニカルパス委員長に談判し出席させて頂きました。

前橋赤十字病院がパスではたいへん有名な病院であることも知らず、レベルの違いに圧倒されながらも先生方のお話を聞かせていただきました。今回の出席に関し、一番楽しみにしていた帝王切開パスのベンチマークの時には、当院のパスも参加させて頂きましたが、たいへん良い経験が出来ました。

ベンチマークとは具体的内容も理解せず、当院のパスを送り、質問にお答えできる程度でしたが、9施設のパスの中身を20名の出席者プラス開催病院の薬剤師・栄養士の皆様等



数多くの人たちが、実際に討論し、細かく項目に沿って掘り下げてくださったのには大層驚き、感謝いたします。指示票から起こした紙パスでそれを電子化したパスを使用していた当院のパスはエビデンスもさることながらあまり深く考えていなかったことが良くわかりました。早速こちらでのご意見を基に再検討を始めていきます。

また、久保田先生のご講演が『パスを機能させるナースの役割～何のためのパスなのか問い続けて～』というナースにとってはたいへん魅力的なテーマだったので非常に楽しみでもありました。活気あふれる先生のお話に引き込まれ私の頭では盛りだくさん過ぎて少々パンク気味でしたが、勇気とファイトを頂きました。内容はあらゆる点からの視点を整理したもので、当院のパスもそれぞれの細かいところをもっとじっくりレクチャーして頂きたいと思いました。

パス大会では、大腿骨頸部骨折の連携パスを使用して早1年以上経過しておりそれぞれの立場からのご発表で、症例数も多くバリエーション分析まできちんとされているのに驚きました。数々の内容にたいへん刺激を受け充実した見学となりました。

次回も機会があれば是非出席したいと思います。今後ともよろしく願い致します。



## 第2回済生会宇都宮病院パス大会 見学会に参加して

2008.10.10

山形県立中央病院 看護師 阿部久美子

当院では、以前にも糖尿病教育入院パスを作成し、使用していましたが、軌道に乗らず、結局使用しないままになっていました。今年パスを新しく作り直し、ようやく使い始めましたが、多くの問題点が浮き彫りとなり、修正するところが多く、困っていました。そこへ済生会宇都宮病院パス大会で糖尿病教育入院パスのベンチマークがあると聞き、「他の病院のパスを参考にできる、またとないチャンス」と思い、参加することにしました。当日は8病院からパスの提供があり、そのうちの3病院が参加し、適応基準、非適応基準、在院日数、検査内容、教育内容、アウトカムの評価方法などについて検討しました。私は1人で参加したので、的確な説明ができたかどうか不安でしたが、他の病院の指導内容や、外来との連携の工夫など、とても参考になりました。最も印象に残ったことは、アウトカムの評価方法で、「基準があいまいである」という議論になった時、1人の医師が「糖尿病の場合は患者さんがバリエーションにとんでいて共通のゴールが難しい。各個人に合わせて柔軟に対応できるということではないか。」という意見を出してくれたことです。当院でも、糖尿病教育入院では患者さんの理解度や心理状態などが様々なため、アウトカムをどうするかということは大きな悩みでした。「各個人に合わせて柔軟に対応する」ということも教育入院においては大切なことであるとわかりました。

クリニカルパス大会も見学させていただきました。今回のテーマは「脊椎手術クリニカルパス」でした。看護師の方の発表では、従来のパスの条件付オーダー（不眠時、発熱時の指示など）で、統一性がなかったり、そのつど医師の指示を確認していたことなどを割り出し、医師との話し合いの結果、わかりやすく統一したものに改定されていました。バリエーションを分析し、医師と話し合いすることが業務改善や事故防止につながっていることを改めて実感しました。また、検査部や薬剤部では感染症例の検出菌を分析し、それに基づいて抗生剤も検討されており、データに基づいた発表で、とても説得力がありました。

済生会宇都宮病院のパス大会で最新のパスに触れることができ、大きな収穫を得ることができました。今後は、今回学んだことを当院のパスに関する活動に役立てていきたいと思えます。



## 第9回日本クリニカルパス学会 学術集会を終えて

2008.11.21~22

第9回日本クリニカルパス学会学術集会会長  
埼玉県済生会川口総合病院 院長 原澤 茂

第9回日本クリニカルパス学会学術集会が2008年11月21日、22日の両日、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティ及びパレスホテル大宮を会場に開催されました。

今回の学術集会は“包括医療への対応 - クリニカルパスの真価を問う - ”をメインテーマにしました。この学会の開催は昨年札幌市、一昨年熊本市であり、関東での開催は数年前の横浜市であったことや、東京から近距離のさいたま市の開催ということと、DPC導入後このクリニカルパスの重要性が認知されたこと等の要因で、2日間で有料参加者が3,000名を超えました。同時開催をしました市民公開講座に無料参加の市民は600~700名でした。

学会の内容は会長講演に加えて特別講演2題、教育講演5題、シンポジウム4題、パネルディスカッション3題、ワークショップ6題、論文の書き方セミナー2題などの主題と一般口演、ポスター、パス展示など合計500以上の演題の発表が行われました。合計11会場に分かれ、それぞれの会場は立見者が出るくらい盛況でありましたし、活発に議論されていたと思われます。特別講演としては、虎の門病院の小松秀樹先生による「医療を崩壊させないために」の講演と、赤穂市民病院の院長であり、中医協の委員でもある邊見公雄先生の「生命輝かそう日本のホスピタリスト - 今、何をなすべきか? - <チー



「ム医療こそ医の本質」についての講演があり、それぞれ大変興味深く、また重要な内容のある講演でありました。教育講演の中では、聖路加看護大学学長、井部俊子先生の「クリニカルパスにおける看護師の専門性」についての講演、厚生労働省の前田光哉先生による「我が国のがん対策の動向」についての講演と東京大学大学院の水流聡子先生による「患者状態適応型パス(PCAPS)標準コンテンツ整備と実装システム開発」についてなど、目新しいお話をしていただき、今後のクリニカルパスの進化に大いに参考になる講演と思いました。

一般口演もクリニカルパスを中心にDPC、がん治療、地域連携、電子化パスなど多方面からの解析がなされその成績の報告と今後の方向性について熱い討論があり、殆どの会場は超満員で、主催者側としては参加者に申し訳ないと思いたくraidでした。

ポスター発表は113題の応募がありました。今回の学術集会から学術集会ポスター賞を設けることになり、事前の応募要項にもアナウンスしておきました。応募抄録を事前に評議員各位に複数名で査読をお願いし、その平均点数の上位20名を同ポスター賞にノミネートし、学会当日(第1日目)にプログラム委員全員にこの20名のポスターを實際、自分の目で審査していただき、最優秀賞1名、優秀賞5名を決定し、会員懇親会の席上で賞の発表と賞状及び金一封を贈呈しました。20名全員壇上集会で各賞の発表を行いましたので、会場は興奮と歓喜で盛り上がりました。次回も行った方がよいと思えました。

スポンサーイベントとしてランチョンセミナー17題を2日間で開催し、企業展示14社の出展をしていただきました。ランチョンセミナー17社には学会の趣旨を十分理解していただき、ご理解ある対応をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今学術集会の最後を市民公開講座で飾ることができました。前述しましたように事前往復はがきでの申し込み約350名と当日自由参加を申し出た市民を合わせて約600～700名の市民に集まっていただき、タレント向井亜紀さんの講演「がんと向き合う - 自分の身体と時間を大切に -」を約1時間50分の長時間のお話をしていただきました。タレントの向井さんは埼玉県出身でもあり、妊娠の際に偶然発見された子宮がんで子宮全摘手術を受け、その後もがんの治療を受けているという自分の体験を基に、その時の心理的な葛藤や、夫である高田さんの手助けなどを切々と話され、聴講された多くの女性の涙を誘っていました。

次回の第10回日本クリニカルパス学会学術集会が岐阜市で開催されますので、楽しみにしたいと思います。



学術集会会長 原澤 茂先生

### 日本クリニカルパス学会第9回学術集会賞 受賞者

#### 最優秀賞：

NICUにおける「こころのケアパス」への取り組み

富山県立中央病院 林 美智子

#### 優秀賞：

骨粗鬆症管理における地域連携 ～地域連携外来クリニカルパスの試み～

前橋赤十字病院 大澤 稔

胃癌化学療法S1/CDDPパスにおける病薬連携への取り組み

古賀総合病院 橋 尚子

弁置換術クリニカルパスのアウトカムの見直しと電子化パスへの改訂

大阪市立大学医学部附属病院 太田 安紀

当院におけるエビデンス部会の活動

- エビデンスが乏しい分野に対する院内エビデンスの構築に向けて -

福井県済生会病院 佐野 正毅

プレバレーションを取り入れた「こども扁桃摘出術ぬりえパス」の作成

社会保険滋賀病院 高根 瞳

#### 入賞：

厚生連高岡病院 経田克則

市立砺波総合病院 中谷典子

市立砺波総合病院 岩上麻子

洛和会音羽病院 田邊昌人

慶應義塾大学病院 鎮目美代子

大館市立総合病院 藤盛吉絵

大阪府済生会吹田病院 平田正純

鶴岡市立荘内病院 富樫敦子

北里大学東病院 渋谷隆幸

住友病院 横溝志乃

東京都府中病院 松田 恵

東京女子医科大学病院 土田由紀子

済生会川口総合病院 島村直紀

福井総合病院 竹山昌枝



学術集会ポスター賞授与式



リレーエッセイ 第15回  
パス活動を振り返って

福井総合病院 吹矢 三恵子

福井総合病院 看護師の吹矢三恵子です。病院の名前を言うとみなさんはすぐに、パリアンス博士の勝尾先生を思い浮かべるとと思います。パス作りやパリアンス分析方法の確立、パス大会や委員会活動を共に企画運営しながら進んで来ました。そしてよく「どうしてそんなに頑張



吹矢 三恵子 看護師

れるのですか?」と聞かれます。パスにかかわり約10年、(パス学会も10回を迎えますが)今回このような機会をいただきましたので、振り返ってみたいと思います。

1999年 当時整形外科病棟に勤務していました。パスのことを全く知らない勝尾先生に本を渡し、パス導入の相談をしました。この頃はルーチンワークの多い看護業務でしたが、看護師の力量による患者指導の差や、リハビリの為に多くのメディカルスタッフの出入りする中、業務の煩雑さが一番の問題だと悩んでいました。この時標準的な業務のツールとしてパスに出会い、のめり込んで行きました。パス導入について準備委員会が設けられ、病院全体で取り組むことが決まったときメンバーに選ばれ内心うれしかったことを憶えています。最初は医師(勝尾先生)と看護師3名で、部活動のように週2~3回業務後に1~2時間の話し合いを行いました。研修会や他施設のパスの資料集めなどを行い、駒場エミナースで開かれた第1回のパス学会へも参加しました。帰宅の遅い日や、学会や研修などで出歩くことが多く、ほとんど家事を行っていないために、「ほったらかし主婦」というあだ名をいただきました。看護部内では、暴走しないようにお目付け役の看護師長が付き、看護記録委員からは多くの反対を受け、「パスの人」と言われ辛い気持ちになった時もありました。しかし小人数での部活動は言いたいことが言える仲間と、業務を楽にしたいという強い思いと、何かをつくり上げていく楽しさで、頑張ることが出来ました。頑張り続けることで徐々に理解者・協力者も増え、認めてもらえるようになりました。ご褒美は学会に参加したときの楽しい食事と小旅行です。

パスの教育・普及活動として、年1回のパスカンファレンス(パス大会)や年2回のパス入門講座inスパ(パスパ)を企画開催しました。また公開パス大会も開催し、外部講

師や全国から多くの方に参加してもらい交流が出来ました。すべての方を記憶に残すことは難しいですが、学会に参加すると声をかけていただけます。またこの学会を通し出会うことができたのが「きらりナースの会」です。パスに取り組む多くの看護師が自分の役割を見つけ、パスの作成や普及のために悪戦苦闘しています。そんなみんなに出会いパスのことだけではない業務の相談やアドバイス、愚痴やプライベートなことまでいろいろと話せる仲間ができました。去年はそんな仲間と小旅行を行ないました。山形県立中央病院の方に準備していただき、蔵王にて温泉につきりながら楽しい時間を過ごしました。もちろん研修室も借りてパスを持ち寄り勉強会もしました。またいつか機会がありましたら楽しい時間を過ごしましょう。

福井という田舎の病院の看護師が、パスを通し全国の多くの先生方や看護師の皆さん、他職種の方々と出会い、自分自身が一番成長させていただいたと思います。パス活動を振り返って、「多くの皆さんが頑張っているから、頑張れるんだ」ということを感じました。

パスの良いところを理解し使ってもらう為に、もっともっと多くの人と話をしていきたいと思います、どうぞお声をかけてください。皆さんよろしく願います。

次回は地域医療連携で活躍されている東京女子医科大学病院地域連携室の下村 裕見子さんにバトンを渡します。



「きらりナース」の会メンバー



## 事務局から



### 活動報告

2008年

11月21/22日 第9回日本クリニカルパス学会学術集会  
(大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮)

2009年

2月13日 第17回済生会熊本病院パス大会見学会

### 今後の活動予定

6月27日 2009年度クリニカルパス教育セミナー(大阪)

8月1日 2009年度クリニカルパス教育セミナー(東京)

12月4/5日 第10回日本クリニカルパス学会学術集会  
(長良川国際会議場/岐阜)

## 第10回 日本クリニカルパス学会学術集会

会期：平成21年12月4日(金)・5日(土)

会場：長良川国際会議場・岐阜都ホテル

会長：松波和寿

(社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 副院長)

テーマ：10年目の原点回帰

「クリニカルパスのもたらしたものの、めざすもの」

プログラム：

クリニカルパス学会10周年記念講演(予定)、特別講演、  
教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、特別企画、  
ランチョンセミナー、一般演題(ポスター)、クリニカルパス  
発表 など

#### 【事前参加登録について】

参加登録開始：平成21年4月初旬予定

#### 【演題募集について】

演題募集期間：平成21年6月4日(木)~9月10日(木) 予定  
応募方法：学会ホームページ(<http://www.jscp.gr.jp/>)を  
ご覧の上、応募してください。

学術集会の詳細に関しては、  
学会ホームページ

<http://www.jscp.gr.jp/meeting/>  
をご覧ください。



第10回 学術集会 in 岐阜

会長 松波 和寿  
社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院 副院長

テーマ：10年目の原点回帰  
「クリニカルパスのもたらしたもののめざすもの」

臨床の不在、医療の実現  
地域に求められる  
包括的医療への対応  
進化する高度医療を  
「標準化し」  
高い質を追求していく

2009年  
12月4日(金)・5日(土)

会場：岐阜都ホテル  
長良川国際会議場

◆学会事務局  
社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院  
代表(058)388-0111  
FAX(058)388-2391  
Mail:cp10@jscp.gr.jp

〒502-0817  
岐阜市長良福光2695-2

The 10th Meeting on the Japanese Society for Clinical Pathway

### お問い合わせ

第10回日本クリニカルパス学会学術集会事務局  
社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院  
〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1  
TEL: 058-388-0111(代)